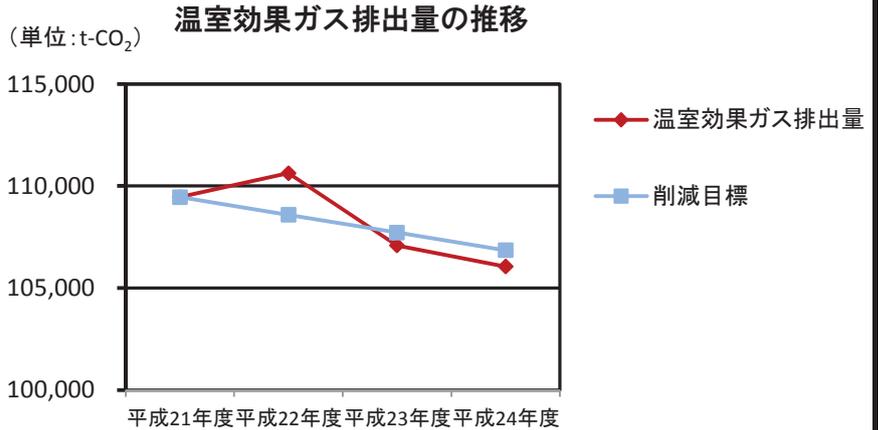


22 温対法及び温対条例に基づく温室効果ガス削減の取組

共通

<b>取組概要</b> 温対法及び温対条例に基づき、特定排出者・特定事業者として温室効果ガス排出量について所管官庁への報告等を行っています。 温室効果ガス削減に向け、設備更新に合わせた高効率型機器の採用などの取組を進めます。	<b>進行管理の指標</b> ○温室効果ガスの削減目標 平成21年度→平成24年度 約2,600 t-CO <sub>2</sub> (約2.5%) の削減	<b>平成24年度の取組結果</b> ○温室効果ガス排出量 平成21年度10万9,454 t-CO <sub>2</sub> 平成24年度10万6,053 t-CO <sub>2</sub> 削減量：3,401 t-CO <sub>2</sub> (3.1%削減)	
		評価	A

<b>今後の取組</b> ○引き続き上下水道局全体として温室効果ガスの削減に向けた取組を実施 【平成27年度】 ○温室効果ガス排出量 約10万8,000 t-CO <sub>2</sub> 削減量：約3,900 t-CO <sub>2</sub> (3.5%削減)
---



23 ISO14001 認証取得・更新

上水 工水

<b>取組概要</b> 長沢浄水場においてはISO環境方針に沿って、年度ごとに環境目標を定め、その達成に向け行動するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めています。	<b>進行管理の指標</b> ○全部門共通目標 ①電気使用量削減 (H23並み) ②コピー用紙及びOA用紙の使用量の削減 (H22に対し1%減) ③廃棄物のリサイクル化(H24まで現状維持) ④グリーン購入の推進 (100%) 平成24年3月25日ISO再認証を取得	<b>平成24年度の取組結果</b> ①電気使用量3.6%削減 (H23対比) ②コピー用紙他1.2%削減 (H22対比) ③廃棄物のリサイクル現状維持 ④グリーン購入100%実施	
		評価	B

<b>今後の取組</b> ○ISO14001 <sup>*</sup> 認証取得・更新
--



※ISO14001 組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められた環境に関する国際的な標準規格

認証シンボル

24 高度処理技術の開発 下水

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
<p>等々力水処理センターは水質汚濁防止法等の新たな水質基準に対応可能な高度処理技術の開発と導入が喫緊の課題となっています。このため、平成20年度からセンター内に実験プラントを設置し、担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法<sup>*</sup>の技術開発を行っています。</p>	<p>○平成23年度に外部評価機関による技術評価を取得した高度処理法について、実験プラントによる装置化に向けた研究開発を実施</p>	<p>○高度処理法の装置化へ向けた実験プラントによる研究開発を実施し、基本設計の検討へ反映</p>	
		評価	B

**今後の取組**  
 【平成25年度】  
 ○高度処理法の処理性能の向上に向けて実験プラントによる研究開発を実施



<sup>\*</sup>担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法  
 酸素活性汚泥法の反応タンクに微生物を結合固定化するために担体を投入し、後段に脱窒ろ過装置を設けることによって、下水中の窒素を効率的に処理する下水の処理方法

研究開発中の高度処理技術の実験プラント

25 下水資源の有効利用技術の開発 下水

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
<p>入江崎総合スラッジセンターからの返流水のりん除去及びりん資源化に向けた研究を行っています。                  温室効果ガス対策、省エネルギー及び下水汚泥の有効利用の観点から汚泥燃料化技術の開発に取り組んでいます。</p>	<p>○返流水に含まれるりんについて、既存施設の活用を含めた返流水りん除去システムの検討を実施                  ○汚泥燃料化の実用化に向けて燃料化物の取扱性（臭気、形状）の調査、燃料化システムの評価を実施</p>	<p>○入江崎総合スラッジセンターの返流水中に含まれるりんについて、既存施設を活用した調査を実施し、設備更新計画との調整や効率性・経済性を考慮したシステムの検討を実施                  ○汚泥燃料化技術の実用化に向けて、汚泥燃料の取扱性について調査するとともに、燃料化システムにおける温室効果ガス削減効果について評価を実施</p>	
		評価	B

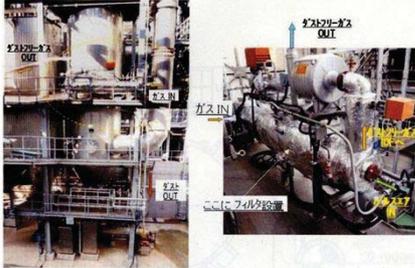
**今後の取組**  
 ○下水汚泥の資源・エネルギー利用の検討



汚泥燃料化物

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
加瀬水処理センター反応タンクでの巡回機構付プロペラ式水中攪拌機※を使った低動力化運転や入江崎総合スラッジセンターの污泥焼却におけるセラミックフィルター※による集塵機能の効率化等の技術開発を行います。	○巡回機構付プロペラ式水中攪拌機及びセラミックフィルターについて、実施への採用の可能性を検討	○実施への採用の可能性について検討を実施し、有効と考えられたセラミックフィルターについて、実施設計の検討へ反映	
		評価	B

**今後の取組**  
 ○新技術採用による省エネルギー、コスト削減のための技術開発の検討



セラミックフィルター式除塵試験装置

※巡回機構付プロペラ式水中攪拌機 下水と活性汚泥を十分に混合するための機械装置  
 ※セラミックフィルター 排ガスから焼却灰を分離し、集めるセラミック製のろ過器

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
○世界の水環境改善に向けた官民連携による国際展開及び技術協力による国際貢献 ○川崎国際環境技術展への出展等による環境情報の発信	○官民連携による国際展開 ○専門家の派遣及び研修生・視察者の受入れ ○川崎国際環境技術展等国際展示会への出展	○世界の水環境改善への貢献を目指す「上下水道分野における国際展開の実施方針」の策定 ○世界の水環境改善へ向けて、官民が連携、協調しながら水ビジネスを推進するプラットフォーム「かわさき水ビジネスネットワーク（かわビズネット）」の設立 ○かわビズネット設立を機に、独立行政法人国際協力機構（JICA）と川崎市との間で開発途上国の水環境改善に向けた連携覚書の締結 ○かわビズネットによるオーストラリア・クィーンズランド州への官民共同ニーズ調査の実施 ○JICA「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」への専門家の派遣（2名） ○上下水道施設への研修生・視察者の受入れ（17か国113名） ○中国・瀋陽水務集团有限公司との間で、上下水道の技術等の交流やビジネス協力促進に向けた友好協力協定の締結 ○下水道分野における国際展開の拠点都市として、国土交通省から「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市に認定 ○川崎市上下水道局及びかわビズネットによる「川崎国際環境技術展」への出展	
		評価	B

**今後の取組**  
 【平成25年度】  
 ○かわビズネットによる対象国・地域へのニーズ調査等の実施やスキーム構築・実施可能性調査へのサポート  
 ○世界の水環境改善を目指す中小企業の海外展開をかわビズネットを通じサポート  
 ○JICA「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」への専門家の派遣  
 ○海外からの研修生・視察者の受入れ  
 ○中国・瀋陽水務集团有限公司との技術交流の実施  
 ○川崎市上下水道局及びかわビズネットによる「川崎国際環境技術展」への出展  
 【平成26年度】  
 ○官民連携による国際展開、技術協力による国際貢献の推進



オーストラリア・クィーンズランド州での官民共同ニーズ調査



ラオスでの技術指導

28 職員の環境意識の向上 共通

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
環境施策の取組の周知・研修などにより、職員の環境関係の知識習得や環境意識の向上を図っています。	○新規採用職員研修などの局研修において、環境関係の科目を盛り込む ○環境関係の講習会等に職員を積極的に派遣	○新規採用職員研修において、環境関係の科目の講義を実施 ○環境に関する講習会に職員を派遣	
		評価	B

今後の取組
○新規採用職員研修における環境関係科目の講義実施 ○各種派遣研修における環境に関する講習会の受講



新規採用職員研修の様子

29 市民の環境学習の推進 共通

取組概要	進行管理の指標	平成24年度の取組結果	
子どもから大人まで環境に配慮した行動を起こすきっかけになるよう、広報活動の一環として小学生の社会科学習に使用する副読本の配布や下水道出前教室の実施、小・中学生を対象としたポスター等の作品コンクールの開催、市民や小学生を対象とした作品コンクールの開催、市民を対象とした施設見学を実施しています。	○上下水道出前教室、夏休み水道教室等、環境学習の充実	○上下水道出前教室を実施 ○小・中学生を対象としたポスター等の作品コンクールの開催 ○市民を対象とした夏休み水道教室や上下流域自治体間交流事業の実施	
		評価	B

今後の取組
○施設見学の拡大を検討



夏休み水道教室の様子



作品コンクール表彰式の様子